

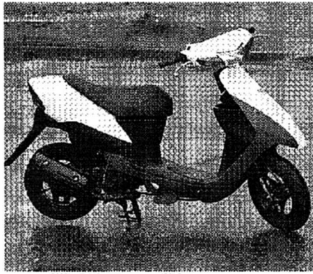
茨城大と日本環境保全が新型バイク

1リットルで150キロの低燃費

石油代替の次世代燃料

茨城大学と溶融炉開発の日本環境保全（茨城県牛久市、古渡周作社長）の産学グループは、次世代燃料のジメチルエーテル（DME）で動くオートバイを開発した。燃費は一辺あたり約百五十キロと効率が非常に高い。排ガス中の有害物質が少ないのが特徴。二輪車メーカーに技術を売り込んで実用化する。

有害排ガスも少なく



ジメチルエーテルを燃料にする

排気量五〇〇の市販のバイクを装着できるように仕組み、試走車で時速四十五キロの走行が可能と、改良すれば市販のオートバイを改造し、座した。配管を通してDMEをエンジンで燃焼する。能であることを確かめるという。

開発した梶谷修一教授（同社）

らのグループは、燃焼方式や点火機関に関する特許を共同出願した。同様に、東南アジアなどで需

要が見込める。燃料（の形式のエンジンを持つガソリン車に比べ、DME

E車の燃費は約二倍に、大規模な燃料供給インフラは燃費が良く、カセットコンロと同じ大きさのボンベ一本で約四十キロ走

剤などに使われている。

燃焼時に硫黄酸化物などの有害物質を出さない燃料とされ、車両や燃料電池、発電所などで利用できると本格的な生産が始まるともある。

引用)2003年5月13日
日本経済新聞
地方経済面 (p.41)

ご注意

過去に当社が原情報を著作した新聞・雑誌等の記事は、画面上の閲覧のみが可能です。これら記事は過去に公開されたものですが、現状で利用する際には著作権等が発生する場合があります。利用をご検討の方は当社にご相談願います。

日本環境保全株式会社